

東京オリンピック・パラリンピック 2020 雑感

特別支援教育コーディネーター（2年次） 網谷 和彦

私の夏休みの関心事は大谷選手の活躍と東京オリンピックでした。コロナ禍ということで、不要不急の外出自粛を求められ、自国開催にしては盛り上がり欠ける感はありましたが、メダル獲得数は58個（金27、銀14、銅17）と過去最高の成績をおさめました。多くの日本人アスリートが活躍した大会でしたが、私の独断と偏見でベスト5（順不同）を選んでみました。皆さんなら誰を選びますか？

・岡本碧優選手（スケートボード女子パーク）

最後の試技を無難にまとめず、それまで2回連続で失敗していた技に最後まで挑戦したが転倒。4位となりメダルに届かず。結果を恐れず挑戦するその姿勢に感激。

・田中希実選手（陸上女子1500m）

予選から日本新記録を連発し、日本人女子として初めて決勝へ進出した。想像を絶する練習と意思の強さには驚かされました。

・上野由岐子選手（ソフトボール）

北京オリンピックの金メダルから13年。あごの骨折から再起し、39歳になった今も日本のエースとして活躍し金メダルへと導いた体力と精神力はただ者ではありません。

・寺田明日香選手（陸上女子100mハードル）

一度引退し、他競技への挑戦や出産を経て復帰。ママさんハードラーとして日本新記録を出しオリンピック出場。この種目で日本人女子として初めて準決勝に進出しました。

・大迫 傑選手（男子マラソン）

106名中30名が途中棄権するという過酷な環境のなか、終盤の36km過ぎで2つ順位を上げ6位入賞。記録は2時間10分41秒。調べてみるとこの記録はオリンピックにおける日本人最速タイムでした。現役引退後の活躍に期待しています。

さて、東京オリンピックに続き東京パラリンピックが8月24日（火）から始まりました。パラリンピックは4つの価値を持ちます。それは、パラリンピックに出場するアスリートたちが持つ力に由来します。

○マイナスの感情に向き合い、乗り越えようとする精神力・・・「勇気」

○困難があっても、諦めず限界を突破しようとする力・・・「強い意思」

○人の心を揺さぶり、駆り立てる力・・・「インスピレーション」

○多様性を認め、創意工夫をすれば、誰もが同じスタートラインに立てることに気づかせる力・・・「公平」

様々な障がいのあるアスリートたちが創意工夫を凝らして限界に挑みます。パラリンピックは多様性を認め、誰もが個性や能力を発揮し活躍できる公正な機会が与えられている場です。それは、共生社会を具現化するための重要なヒントが詰まっている大会であり、社会の中にあるバリアを減らしていくことの必要性や、発想の転換が必要であることにも気づかせてくれます。 （パラサポWEBより引用）

こうした視点からパラリンピックを観戦してはいかがでしょうか？

